

本事例の基礎データ

カテゴリ	I C T及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	小学校	事例提供者	八王子市立横川小学校
学年	1年生	教科等	国語科
単元名	かいてみよう（ひらがなの学習）		
主な ICT 機器	・タブレットP C（キーボード付き Chrome OS 機／一人1台）		
授業の概要	平仮名「ひ」の学習 既習「ひらがな文字」と言葉の習熟		
「情報活用能力 #東京モデル」 の位置付け	基本的操作	STEP1	<ul style="list-style-type: none"> ・起動や終了、ログイン・ログアウト、写真撮影などの基本的操作ができる ・学習支援アプリケーションを選択・操作できる

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	<p>1年生1学期からの一人1台の学習用端末の活用</p> <p>学習用端末を使い始めて1か月ほど経ち、日常的に学習用端末を起動し、ログイン、活用することができている。日常的に活用することで習熟が非常に早くなっている。</p>
【ポイント2】	<p>Google Workspace for Education Classroom の活用</p> <p>児童はClassroomに入ることで、必要な課題やメッセージを受け取ることができる。またURLを投稿することで、学習支援ソフトなどへ簡単にアクセスすることや、Google Meetでオンライン学習を行うことができる。</p>
【ポイント3】	<p>学習支援ソフト「ミライシード」（ベネッセ）の活用</p> <p>ドリル機能の他、オクリンクという機能を活用し、児童へ課題を配布し、集めた後に、全員の課題の様子を閲覧することができ、意見交流にも使っている。</p>

本単元（題材）における指導の流れ

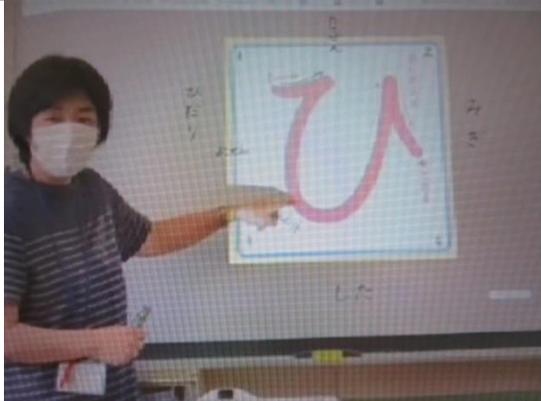
時間	●主な学習活動 ・ 児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ●文字を書くときの正しい姿勢と鉛筆の持ち方を知る。 ・教科書の挿絵や写真を見て正しい鉛筆の持ち方、正しい姿勢を知る。 ・姿勢と鉛筆の持ち方に気を付けて、教科書の運筆練習の線をなぞる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「こしぴん」「あしぺた」「ぐうひとつ」の合言葉を唱えさせながら、正しい姿勢を身に付けさせる。 ○鉛筆の持ち方を机間指導により個別に行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> ●平仮名を声に出して読み、簡単な平仮名を書く。 ・「く」「つ」「り」「と」などの書き方を知り、書く。 ・とめ、はね、はらいなどに気を付けて書く練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○拡大投影装置で文字を大きく映し、全員がポイントを理解できるようにする。 ○ノートに練習する際には丁寧にリード線をなぞるように声をかける。 ○姿勢や鉛筆の持ち方などについて机間指導を行う。
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ●「ひ」の書き方を理解し、正しい形で書く。 ・形の特徴を考え、気を付けるポイントを理解し、書く。 ●既習の文字を使い、Chromebookになぞり書きをして入力し、教師に提出する。 ・友達の書いた文字を見て、感想を言い合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○形を整えて書くことが難しい平仮名なので、児童間であらかじめ書くポイントを出し合い、共有してから、各自の練習ができるようにする。 ○学習用端末の扱いに不安がある児童に端末操作の支援を個別に行う。 ☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方を意識して、平仮名を読み、書いている。 <p style="text-align: right;">【知識・技能】</p>

本時の流れ

段階	●主な学習活動・児童の活動	○支援・留意点 ☆評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・机の上を整理して、正しい姿勢で文字を書く準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポイントを図示したものを板書に掲示し、きちんと守れるように促す。
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">「ひ」を正しく書いてみよう</div>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> ●「ひ」の字の書き方を話し合う。 ・「ひ」の字の特徴や工夫することを話し合う。 ●ドリルノートに「ひ」の練習を書く。 ・線の上を正しくなぞる。 ・曲がり方に気を付けて書く。 ●ドリルで習った文字を Chromebook で練習する。 ・Classroom のストリームの URL をクリックし、ミライシードにアクセスする。 ・オクリンクのカードに書いてある字を指でなぞり書きする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が集中して、分かりやすく説明できるように、板書に拡大投影装置で文字を投影する。 ○リード線をたよりに、正しい形を書くように声をかける。 ○あわてて雑に書かないよう、丁寧に書くように声をかける。 ○オクリンクの画面をプロジェクターに投影しながら、丁寧に説明する。 <p>☆正しい姿勢と鉛筆の持ち方を意識して、平仮名を書いている。</p> <p>【知識・技能】</p>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ●書き終わったら、カードを先生に送る。 ・書いたカードを送信する。 ●みんなでカードを見合う。 ・他の児童の書いた字を見て、お互いに感想を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○うまく送ることができない児童は個別に支援する。

授業の実際

【ポイント1】 ●板書に拡大投影することで視覚的に分かりやすい。



板書に拡大投影装置で文字を大きく投影することで、児童に文字の形のポイントを伝えやすい。
話合いの時に児童が前に来て説明しやすい。

【ポイント2】 ●指でタッチパネルをなぞり書きをすることで、文字を練習する。



授業の後半に習熟の時間として、既習の文字のなぞり書きの活動を取り入れる。
1年生のこの時期には正しい鉛筆の持ち方と力の入れ方を学習する。力の入れ方を身に付けさせるには、タッチペンよりも、なぞり書きの方が効果的である。

【ポイント3】 ●学習支援ソフト「ミライシード」を活用し、全体共有する。。



学習支援ソフト「ミライシード」のオクリンクを活用し、課題を提出させ、教員用タブレットを投影することで、全員の回答を全体共有することができて効果的である。

今後に向けて

●1年生でも様々な教科で活用していく。

国語科だけでなく、算数科、道徳科など教科に活用の幅を広げていく。ただ、指でのなぞり書きだけでは限界があるので、入力方法を工夫する必要がある。

●ノートと鉛筆、学習用端末のハイブリッドな活用を行う。

学習のポイントに合わせて、必要な道具を選択して取り組めるようにする。